

食文化と観光

～フードツーリズムのすすめ～

大阪府立大学観光産業戦略研究所

客員研究員 尾家 建生

■食文化と観光

先史時代

人類は約300万年の歴史のうち99.7%を「食べるがための旅」に費やしてきた。食を求めること自体が旅の目的だった

文明の誕生

農耕生活と氏族社会の到来により食料の安定した供給と定住が可能になった。
食事のほとんどを自給・自炊しなくてはならなかった難儀な旅

中世～近世

街道交通網が発達し、宿屋と食堂・茶屋で飲食が供給されるようになって行程が立てやすくなった旅、ガイドブックの登場。

近代ツーリズム

近代交通で快適性が高まり選択肢が多様に広がり、食が楽しめるようになった旅。
その土地の名物や特産を楽しむ。 (以上、神崎宣武「旅と食」2002)

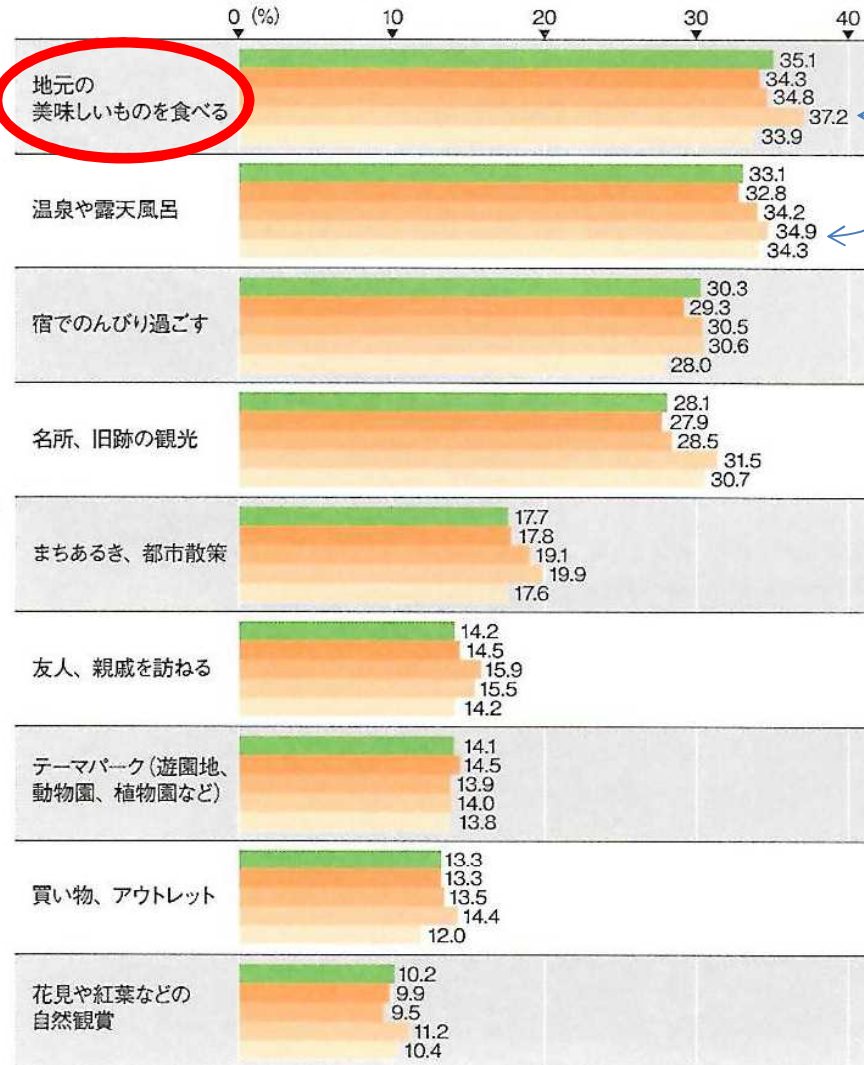
現代ツーリズム

「食」はその場所独特の文化であり、したがって観光資源である。「食」を目的とした観光客が現れ、地域は「食」を観光振興に活用し始めた。

「食」は味覚・嗅覚を中心とした五感及び知識、記憶（経験）と生理によって体験することができ、さらに安心、快樂、人と人を結びつける場を創ることができる。

■ 観光需要 (国内旅行)

図9 宿泊旅行の目的（複数回答） ※ベース：宿泊旅行件数

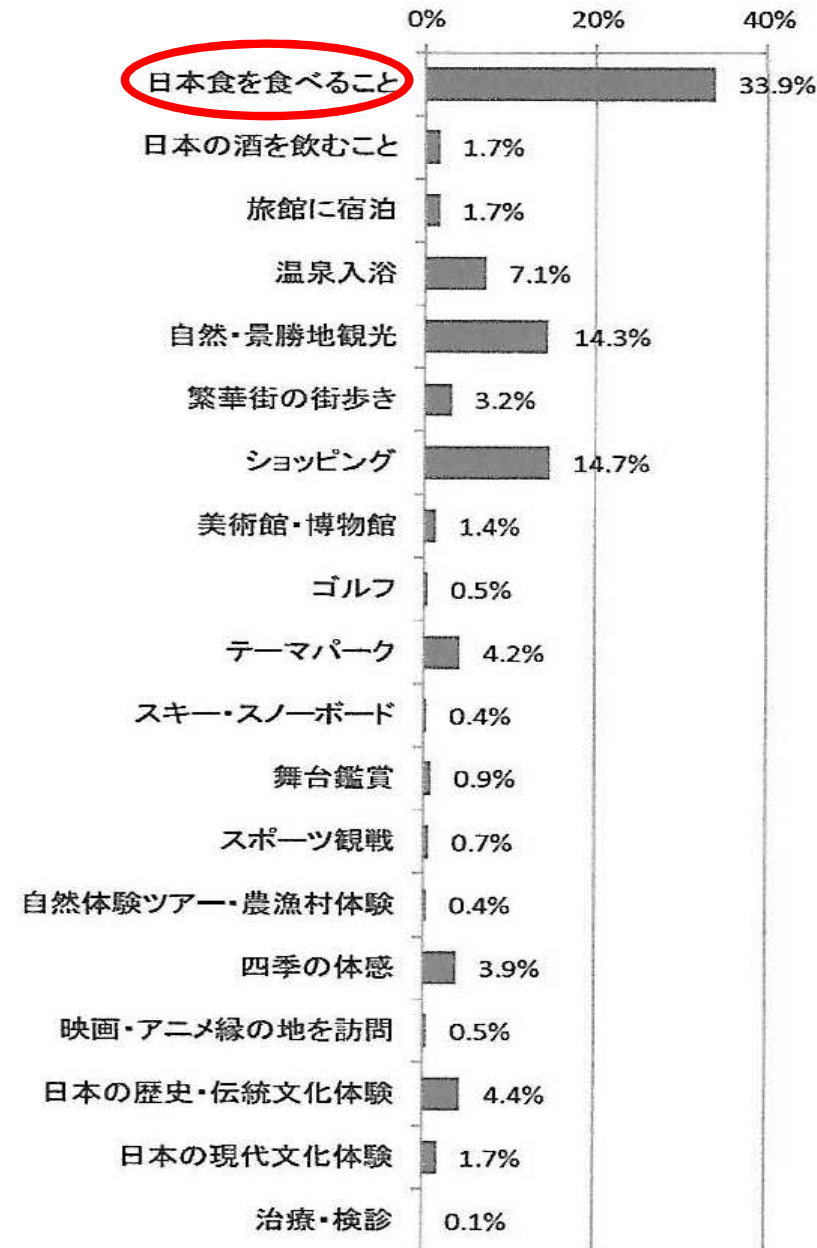


2011年

出所：じゃらん宿泊
旅行調査2014(リク
ルート)

■訪日外国人 観光客の需要

図表 6-2 訪日前に最も期待していたこと
(全国籍・地域、単一回答)



- 1 日本食
- 2 ショッピング
- 3 自然・景勝地
- 4 温泉入浴
- 5 歴史・伝統文化
- 6 テーマパーク
- 7 四季の体感
- 8 繁華街の街歩き
- 9～11 日本酒、
旅館、現代文化

(出所:観光庁2014年
10～12月期)

■ 経済効果

食関連の観光消費

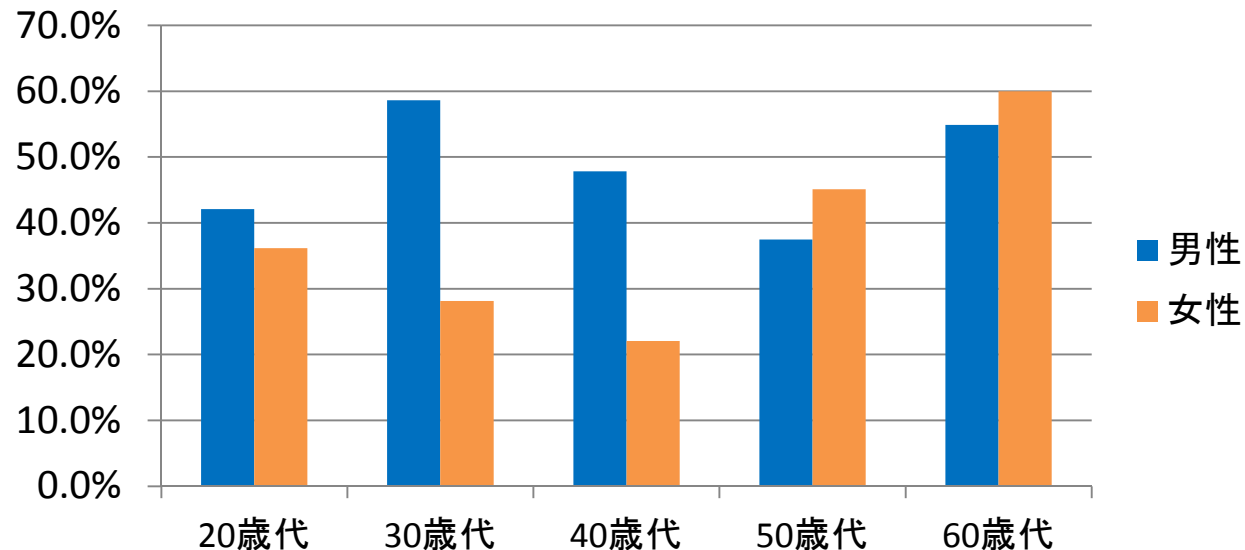
※京都市観光調査(H25)に見る一人あたりの平均金額

区分	宿泊(円)	日帰り(円)
市内交通費	3,350	918
宿泊代	7,806	—
土産品代	8,039	2,248
食事代	9,701	2,309
その他経費	3,734	1,621
合計	32,630円	7,096円
食関連	16,857円 (51.7%)	4,192円 (59.0%)

■フードツーリズム調査

Q:あなたはこの1年間で、食を目的(あるいは目的のひとつ)とした国内旅行の経験はありますか？

[日帰り旅行]「はい」が男性47.8%、女性34.9%で全体として41.2%の人が経験ありであった。

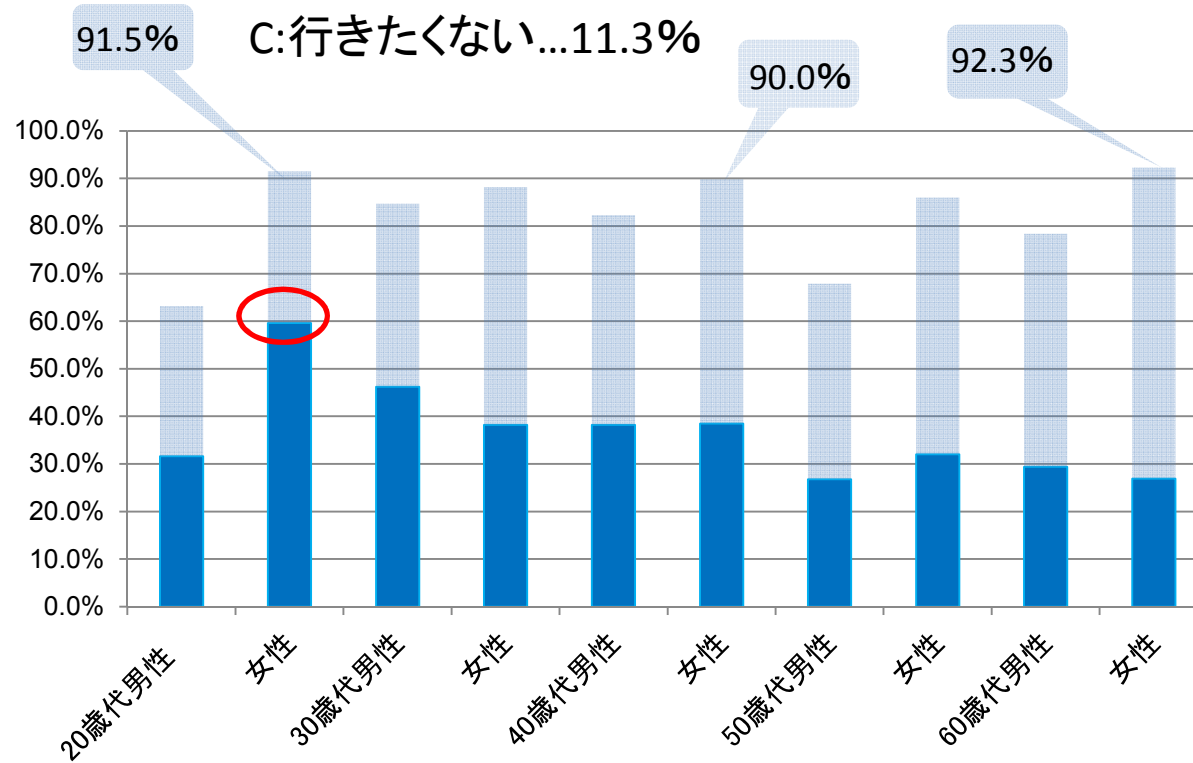


[宿泊旅行] 全体で42.2%

調査:フードツーリズム研究会(2012年7月;457件)

あなたはフードツーリズムへ行きたいですか。

[日帰り旅行] A:是非行きたい...39.6% } 行きたい 87.3%
 B:機会があれば行きたい...47.7% }
 C:行きたくない...11.3% }
 どこへ?



[宿泊旅行] 男性86.2%、女性91.4%と平均で88.9%もの人が願望している。

農家レストラン「知憩軒」の長南光さんの話(2012年)

「観光地に、来るついでに食べるから、食がメインでついでに観光するお客が増えた。最初は信じられなかったが、旅行スタイルが変わった。客層は中高年を中心に圧倒的に女性が多く、年配の人たちは味を懐かしがり、外国人は日本人が普段食べている料理を食べたいと来る。」



■フードツーリズムのすすめ

- 食べ歩きツアー
- 食べ歩きマップ
- 農家レストラン
- ご当地グルメ
- 料理民宿/旅館
- ワイナリー
- 屋台街/横丁
- オーベルジュ
- 有名レストラン
- 郷土料理店
- 市場観光
- フードフェスティバル

